

## ■16 関係機関・団体との連携に関する事項

### 1 校友会・親和会との連携

#### ●校友会・親和会・大学の三者で連携する事業

校友会及び親和会は、いずれもその設立趣旨に則り、龍谷大学の発展に資するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的としている。また、大学・校友会・親和会の三者で共催事業を展開しており、龍谷大学の発展に努めている。

#### ●校友会との連携

校友会と連携した取り組みとしては、海外を含む全国に在住する校友（卒業生）とのネットワークを構築し、龍谷大学（母校）の発展に寄与する関係を醸成することを目的に、龍谷賞（卒業生対象）・校友会賞（在学生対象）、校友会奨励生、校友会各支部における講演会・交流会を共催して実施する。また在学生対象に各種資格取得支援、卒業生対象にキャリアアップ支援等も行っていく。

#### ●親和会との連携

親和会と連携した取り組みとしては、本学と保護者との信頼関係を維持するため、保護者への在学生の成績表送付や、成績懇談・就職懇談を含む保護者懇談会（29都市）の共催等、保護者への情報提供に努める。また在学生の学修環境の整備、課外活動等に対し、親和会からも積極的な支援・協力を求めている。

#### ●2010年度の特記事項

2010年度の三者共催事業は、卒業生及び保護者以外の方（一般者）も対象に含めた公開講演会「龍谷大学 in KUMAMOTO」（講師：五木寛之氏（予定））を10月に開催し、九州地区での大学知名度向上を図る。また、卒業生及び保護者の交流場所として「セミナーハウスともいき荘」の利用促進に努める。

### 2 浄土真宗本願寺派との連携

本法人の設置理念や寄附行為からも見られるように、浄土真宗本願寺派との関係は重要である。本法人の発展に係る歴史的経緯を見ても、人的・経済的な側面において浄土真宗本願寺派から様々な支援を受けており、今後も本法人が多様な展開を進めながら社会的支持基盤を確立していくために、浄土真宗本願寺派との連携を強化する。

#### ●親鸞聖人750回大遠忌への協力

浄土真宗本願寺派では、2011年に迎える親鸞聖人750回大遠忌に向けて「親鸞聖人750回大遠忌宗門長期振興計画」を策定し諸事業を展開している。同計画に定められている事業の中で、双方が協力または積極的な連携により実現が可能な事業について、総合的な調整や意見の集約を行うために「宗学連携推進協議会」を設置し、協議を行っている。2010年度も引き続き、同協議会を中心として連携事業等について協議を進めていく。

#### ●龍谷ミュージアム開設へ向けての協議の推進

2011年4月の龍谷ミュージアムの開設に向けて、宗学連携推進協議会の下に置かれている「龍谷ミュージアム」構想検討協議会を中心に、仏教や本願寺等に関する学術資料や文化財の収集保存、調査研究、公開等に関して、協議を

推進する。

### 3 龍谷総合学園との連携

親鸞聖人の精神・浄土真宗の教えを建学の精神とする学園が、それぞれの個性を活かしつつ、相互の連携を密にしながら発展することを目的に「龍谷総合学園」が組織されており、現在、25学校法人64校（6大学、2短期大学、26高等学校、14中学校、3小学校、13幼稚園）が加盟している。

#### ●学校間連携推進委員会等への参画

加盟校の学校間連携に関する諸事業を統括する中核機関として、「龍谷総合学園学校間連携推進委員会」が設置されている。同委員会は、生徒・学生及び教職員の交流を通じ、総合学園と各学校の教育・学習活動の活性化を促すための事業の企画・推進を目的としており、本学は龍谷総合学園の中核校として、事業の企画・推進に携わっていく。また、2010年度の事業として計画されている、各種研修会、研究会、協議会等にも積極的に参加し、龍谷総合学園の発展に寄与できるよう努める。

#### ●龍谷アドバンスト・プロジェクトへの協力

龍谷総合学園は、高大連携事業として、e-learningによる教育素材を活用しながら、学校間の相互連携・人的交流を図りつつ、生徒の主体性を支援することを目的とした「龍谷アドバンスト・プロジェクト」を実施している。本学は、同プロジェクトの企画・運営に対して、実施初年度から中心的に協力・支援を行っており、2010年度においても、引き続き、担当講師や学生サポーターの派遣、科目提供や合宿研修時の指導等の協力、支援を行う。

### 4 仏教系大学会議との連携

「仏教系大学会議」は、現在66の大学・短期大学で組織されており、建学の理念を仏教におく全国の仏教系大学が、それぞれの個性を尊重しつつ各大学間の連携を密にし、各大学の充実発展を図るとともに高等教育機関としての社会的責務を遂行することを設立の目的としている。

#### ●幹事校、研修運営担当校として参画

本学は、1994年の設立当初より幹事校（愛知学院大学、大谷大学、高野山大学、駒澤大学、淑徳短期大学、大正大学、兵庫大学、佛教大学、立正大学、龍谷大学）として参画しており、幹事である学長が本会議の運営に主体的に携わっている。また、本会議は毎年度、研修会の開催及び機関紙「如是我聞」の発行を行っている。本学は、今年度研修会の運営担当校となっており、代表幹事校である大谷大学、研修会場担当校の鶴見大学と連携し、加盟大学の発展に資するべく研修会の企画・運営を行うとともに、引き続き、本会議の趣旨を踏まえながら各事業に積極的に携わり、各大学との連携を強化していくこととする。

## 5 その他（私立大学連盟／大学コンソーシアム京都）

### <日本私立大学連盟>

日本私立大学連盟（以下「連盟」という）は、私立大学の振興等を目的として設置された社団法人であり、現在122の大学が加盟している。本学は、教育研究環境の向上と経営基盤の確立に資することを目的に加盟しており、連盟を通じて高等教育政策動向や他大学の状況についての情報を敏速かつ的確に収集することに努めている。

#### ● 諸委員等の派遣と研修事業等への参加

連盟の方向性や情報を敏速かつ適格に収集するため、2010年度においても、従来どおり諸委員等の派遣を行うとともに、連盟の実施する各種研修事業等に、必要性を判断しながら、積極的に本学職員を参加させることとする。

### <大学コンソーシアム京都>

大学コンソーシアム京都（以下「コンソーシアム」という）は、「大学のまち・京都」の充実・発展を目的に、大

学間連携事業や産官学地域連携事業を展開する財団法人であり、京都地域の約50大学が加盟している。本学は、コンソーシアムの設置当初から加盟しており、運営に主体的に携わっている。

#### ● コンソーシアムが運営する単位互換制度への本学学生の派遣と他大学学生・一般市民の受入

本学学生及びコンソーシアムに所属する他大学学生に対し、多様な学習機会を提供するため、コンソーシアムが実施する単位互換制度（2009年度：本学からの派遣学生数255名、他大学からの受入学生数628名）やインターンシップ事業（2009年度：本学の参加学生数113名）を積極的に活用している。2010年度においても、引き続き、積極的に活用すべく推進していく。

#### ● コンソーシアム運営に対する本学の取り組み

従来どおりコンソーシアムの運営に携わることとし、専任事務職員を出向させるとともに、必要に応じて諸委員等を派遣する。